

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



神戸でのJapan Kidney Week。「お疲れさま」とねぎらう間もなく、ミュンヘンでのERA-EDTAに参加の先生方もおられるのではないのでしょうか？学会シーズンがやっと一段落の7月。J-DAVID試験の症例登録期間は12月28日まで、あと半年となりました。「もう5例」キャンペーン実施中です。同封のご案内をお読みいただき、最後の追い込みにご協力くださ〜い。

世話人からのメッセージ

「腎・透析疾患領域の日本発のエビデンスの創出を」

筑波大学大学院人間総合科学研究科腎臓病態医学 教授
山縣 邦弘先生

腎不全患者では腎での1 α hydroxylaseの活性が失われ、活性型ビタミンD不足になる。このため、腎不全患者では、ビタミンD不足を予防するため、活性型ビタミンDの投与を行うことは至極当然のことと思われる。しかしながら、実臨床においては、保存期慢性腎不全患者に活性型ビタミンDを投与すると腎機能は悪化する、腎機能悪化を抑制するなど、相反する知見が存在している。透析患者においても、一律の活性型ビタミンDの投与は低回転骨の発症を促し、高カルシウム、高リン血症、異所性石灰沈着を招くなどの指摘があり、活性型ビタミンDが足りないから補充という単純な話では全く済まされない。そもそもビタミンDには多様な作用の存在が知られており、副甲状腺を介したカルシウム・骨への効果と同時に、免疫調節、炎症調節への作用、さらにレニンやインスリンの遺伝子発現への作用があることが明らかになっている。

このような中で、維持透析患者にビタミンD製剤を投与した方がいいのかどうか、その答えを出すのがこのJ-DAVID試験である。この研究では観察研究で明らかとなった、1 α (OH)D3投与の透析患者における心臓血管病発症抑制効果、ひいては長寿をもたらす効果の有無を、PROBE法による前向き研究デザインで見るとのである。

J-DAVID試験の結果により、透析患者の基本的処方として活性型ビタミンDを投与すべきかどうかの答えが導きだされるはずである。

現在、私どもは慢性腎臓病重症化予防のための戦略研究(<http://fromj.jp/>)を全国49地区医師会の先生方、日本栄養士会



の協力のもと、実施させていただいている。こちらは腎機能正常から保存期慢性腎不全までのCKD患者全般を対象とし、各医師会をクラスターとするクラスターランダム化前向き比較試験で、CKD診療ガイドの診療目標に近づけるエビデンス実践ギャップの解消の腎機能悪化スピードに対する効果が明らかになるはずである。

FROM-J, J-DAVID試験、さらには日本腎臓学会が中心となって実施しているJKDRなどのコホート研究を含め、日本発の洗練された研究デザインの腎領域の前向き研究・臨床研究により、客観的で、日常診療に役立つエビデンスを創出することが強く求められている。何より我が国は維持透析患者数が世界第2位の透析大国であり、医療体制、社会背景ともJ-DAVID試験のような透析患者の実践的、臨床的なエビデンスを創出するにはうってつけのはずだ。J-DAVID試験の成功を切に祈るものである。

最近の文献から

肥満女性の減量後、血清25(OH)ビタミンD濃度は上昇し、インスリン抵抗性改善と相関する

Rising Serum 25-Hydroxy-Vitamin D Levels after Weight Loss in Obese Women Correlate with Improvement in Insulin Resistance.

Tzotzas T, et al. J Clin Endocrinol Metab. 2010 Jun 9. [Epub ahead of print]

【ポイント】

血清25(OH)ビタミンD濃度は肥満女性では低く、肥満諸指標と逆相関する。減量で上昇し、HOMA指数と相関した。

【詳しくは】 <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20534751>

最新進捗状

累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(6月21日現在)

各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	78	2
山形	3	6	0
宮城	5	2	0
東京	29	51	0
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	2	0
神奈川	2	12	0
愛知	17	7	0
大阪・兵庫	52	224	11
奈良・和歌山	12	38	0
京都	5	67	0
広島・岡山	6	18	0
島根	8	5	0
徳島	2	5	0
高知	3	14	0
愛媛	1	18	0
福岡・佐賀	11	5	0
沖縄	7	4	0
合計	188	556	13

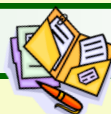
累計登録数ランキングTOP10

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	55
②	桃仁会病院／京都	47
③	北彩都病院／北海道	28
④	翠悠会診療所／奈良・和歌山	27
⑤	永山クリニック／大阪	25
⑤	札幌北楡病院／北海道	25
⑦	佐藤循環器科内科／愛媛	18
⑧	小野内科／大阪	16
⑨	大野記念病院／大阪	15
⑨	西陣病院／京都	15

6月度登録数ランキングTOP5

順位	施設名	登録件数
①	有澤総合病院／大阪	5
②	阪和記念病院／大阪	3
③	札幌北楡病院／北海道	2
③	小野内科／大阪	2
⑤	石切生喜病院／大阪	1

J-DAVID事務局からお知らせ



症例報告書郵送時のお願い

症例報告書を郵送される際は、お送りしておりますエクスパックをご利用頂き、原本をJ-DAVID事務局へお送り下さい。ご施設では、原本のコピーを保管頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

服薬コンプライアンス調査票について

被験者の割付群が投与群・非投与群に関わらず、症例報告書のコンプライアンス調査票には服薬状況をご記入の上、提出して頂きますよう宜しくお願い致します。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
データセンター
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
電話・FAX 06-6646-3105

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>